

タカラスタンダード株式会社

2023年3月期

決算説明資料

2023年5月11日

証券コード
7981

水まわりって、大切だから

Takara standard

2023年3月期 決算概要

売上高は過去最高を更新、営業利益は24.2%減

売上高は新築・リフォームともに引き続き好調。
営業利益は資材・エネルギー価格高騰の影響により減益。

2024年3月期 業績予想

増収増益を計画

収益力の改善、基本戦略の推進、新規事業の拡大への取組みに注力。

株主還元関連

2024年3月期は「増配」と「自己株式取得」を予定

資本効率の向上及び株主還元のより一層の充実を目的に、
増配 2円、自己株式取得 38億円(上限)を予定。【総還元性向 80%水準】

設備投資計画

2024年3月期は137億円を計画（前期実績の約1.6倍）

更なる成長及び生産性の向上を目的に、生産関連投資で88億円、
その他IT関連投資などを含め、積極的な投資を計画。

1. 2023年3月期 決算概要 P. 2 ~ 11
2. 2024年3月期 業績予想 P. 12 ~ 17
3. トピックス P. 18 ~ 24

売上高は新築・リフォームともに引き続き好調で7.5%増、過去最高を更新
 営業利益は資材・エネルギー価格高騰の影響で24.2%減

【売上高】 **2,274億円** 前期比 +7.5% 業績予想比 +4.5%

商品力の強化や大都市圏を中心とした営業力の強化などにより、新築向け、リフォーム向けとも好調に推移し、過去最高の売上高を更新。業績予想を4.5%上回った。

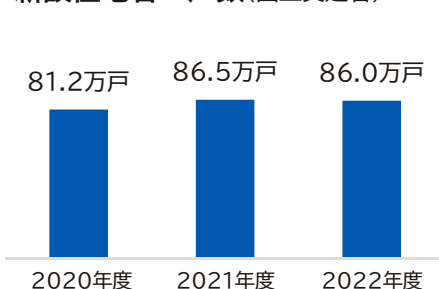
【営業利益】 **109億円** 前期比 Δ 24.2% 業績予想比 Δ 11.1%

【当期純利益】 **84億円** 前期比 Δ 22.8% 業績予想比 +2.7%

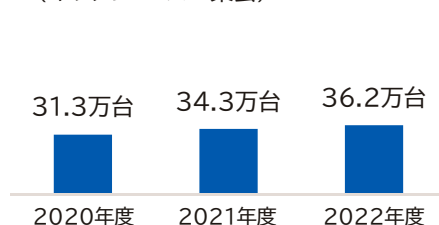
2022年4月実施の価格改定や生産性向上の推進により収益力の改善を図ったものの、想定以上の資材・エネルギー価格高騰の影響により、営業利益は業績予想を11.1%下回った。当期純利益は投資有価証券売却益により、業績予想を2.7%上回った。

業界の動向

新設住宅着工戸数(国土交通省)

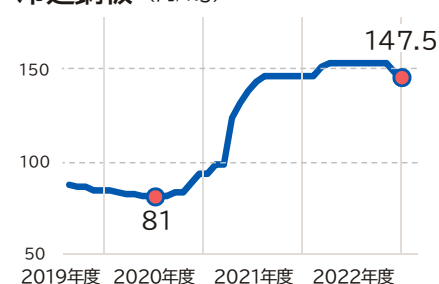


リフォーム市場でのキッチン出荷台数(キッチン・バス工業会)



主な資材の市況

冷延鋼板 (円/kg)



ナフサ (円/kl)

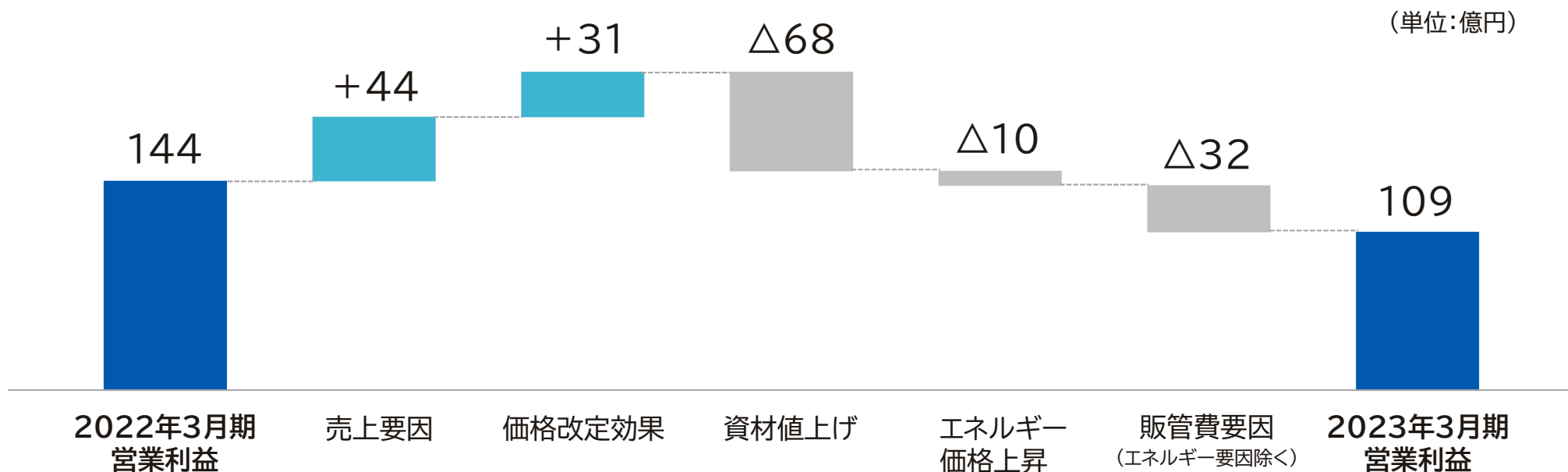


(単位:億円)

	2022年3月期		2023年3月期				2023年3月期 業績予想	
	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率	金額	業績予想比
売上高	2,115	100.0%	2,274	100.0%	+158	+7.5%	2,176	+4.5%
売上総利益	761	36.0%	760	33.4%	△0	△0.1%	—	—
販売費及び 一般管理費	616	29.2%	650	28.6%	+33	+5.5%	—	—
営業利益	144	6.8%	109	4.8%	△34	△24.2%	123	△11.1%
経常利益	148	7.0%	114	5.1%	△33	△22.7%	127	△9.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	109	5.2%	84	3.7%	△24	△22.8%	82	+2.7%
ROE (自己資本当期純利益率)	6.1%		4.6%					

営業利益の増減要因

(単位:億円)

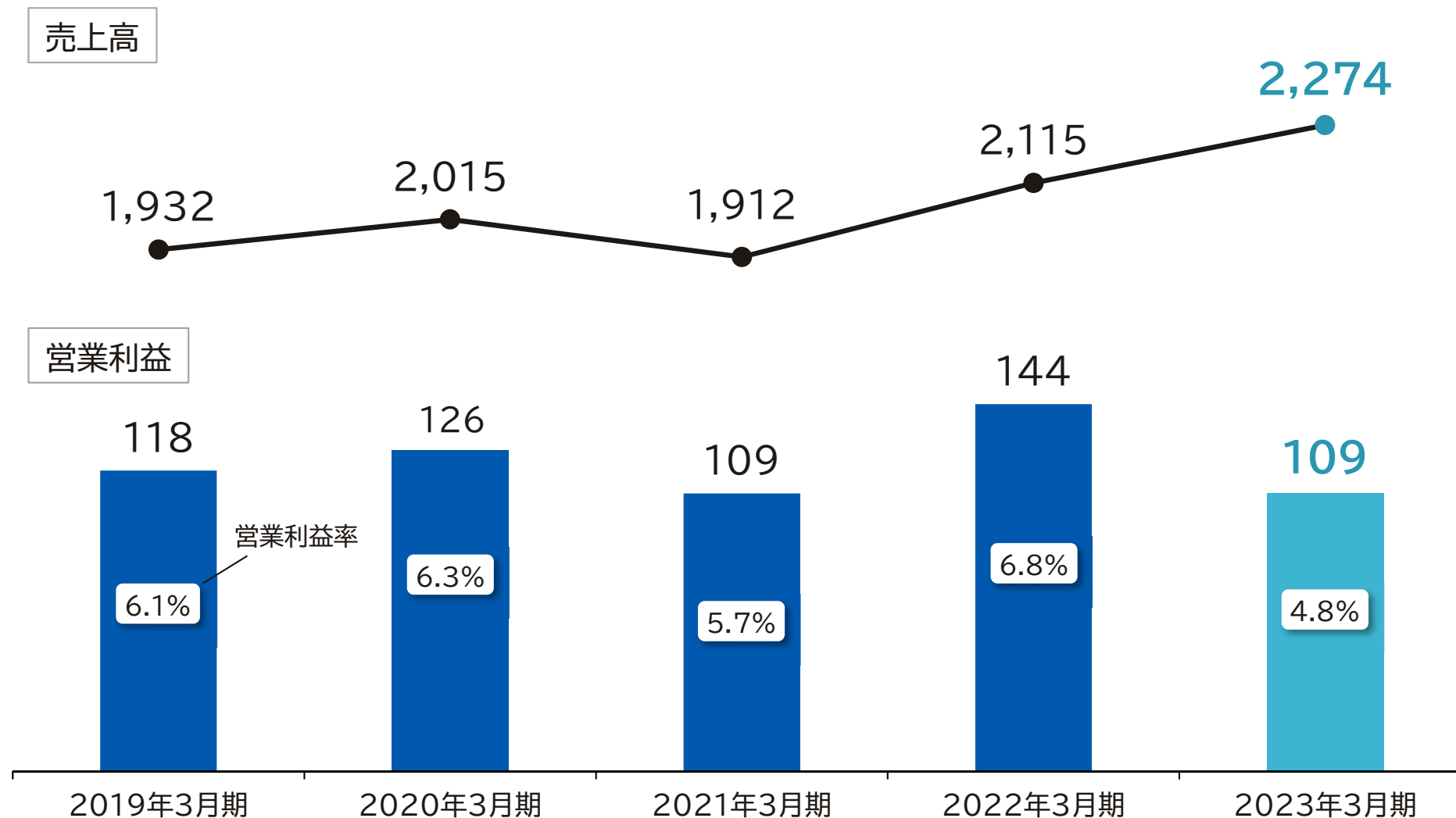


売上要因	比較的利益率の高いリフォーム向け売上が好調に推移し、なかでも2022年8月発売の中高級システムバス「グランスパ」の拡販が進んだ。また、新築向け売上也好調に推移した。
価格改定効果	キッチンをはじめ各製品部門において実施した価格改定の効果により利益が増加した。
資材値上げ	主要な資材である鋼板、ステンレス、樹脂原料などの市況の高騰が続いており、大幅なコストアップとなった。
エネルギー価格上昇	製造工程や事業所で使用するガス、電力の価格上昇によりコストアップとなった。
販管費要因	経費抑制の取組みにより販管費率は低下したが(前期 29.2% → 当期 28.6%)、売上の増加に伴い物流費を中心に増加した。

売上高 及び 営業利益の推移

Takara standard

(単位:億円)



※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、2021年3月期は遡って適用した数値となっておりますが、2020年3月期以前の各数値は遡及適用しておりません。

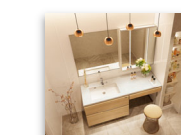
製品部門別の売上高

Takara standard

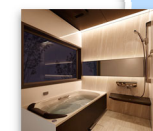
キッチン部門、洗面化粧台部門は中高級シリーズを中心に前年を上回り、浴室部門では2022年8月発売の中高級シリーズ「グランスパ」の拡販や新築マンション向けも出荷台数を伸ばすなど、主要3部門とも好調。

(単位:億円)

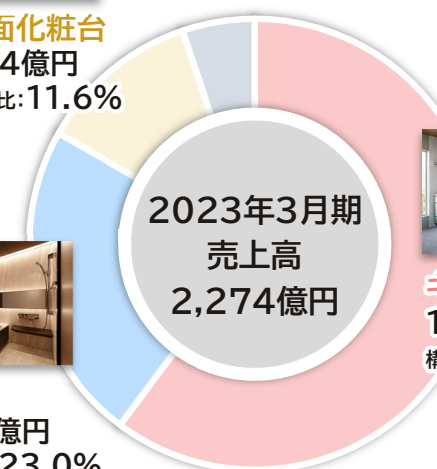
	2022年3月期		2023年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	1,283	60.7%	1,368	60.2%	+85	+6.7%
浴室	474	22.4%	524	23.0%	+49	+10.5%
洗面化粧台	240	11.4%	264	11.6%	+23	+9.8%
その他共計	2,115	100.0%	2,274	100.0%	+158	+7.5%



洗面化粧台
264億円
構成比:11.6%



浴室
524億円
構成比:23.0%



キッチン
1,368億円
構成比:60.2%

【内数】

パネル関連売上	59	2.8%	65	2.9%	+5	+9.7%
海外事業売上	10	0.5%	12	0.5%	+1	+18.8%

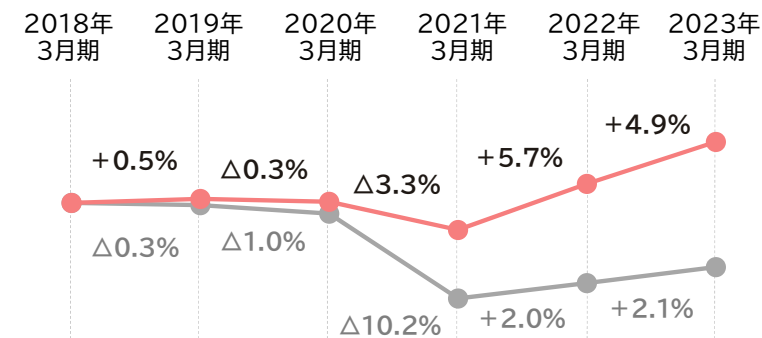
出荷台数増減率(業界比較)

当社の出荷台数の対前期増減率は業界(キッチン・バス工業会)を上回る水準で推移。

キッチン



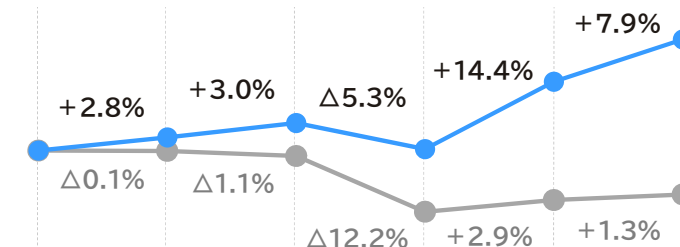
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
当社	+0.5%	△0.3%	△3.3%	+5.7%	+4.9%
キッチン・バス工業会	△0.3%	△1.0%	△10.2%	+2.0%	+2.1%



浴室



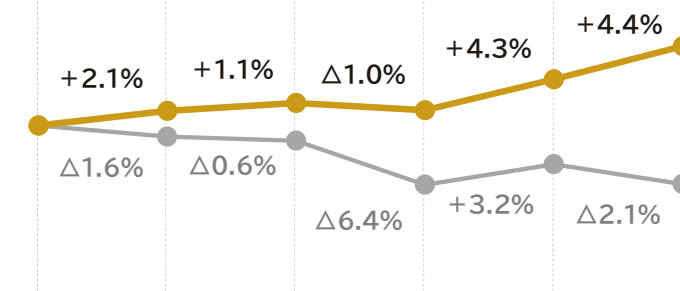
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
当社	+2.8%	+3.0%	△5.3%	+14.4%	+7.9%
キッチン・バス工業会	△0.1%	△1.1%	△12.2%	+2.9%	+1.3%



洗面化粧台



	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
当社	+2.1%	+1.1%	△1.0%	+4.3%	+4.4%
キッチン・バス工業会	△1.6%	△0.6%	△6.4%	+3.2%	△2.1%



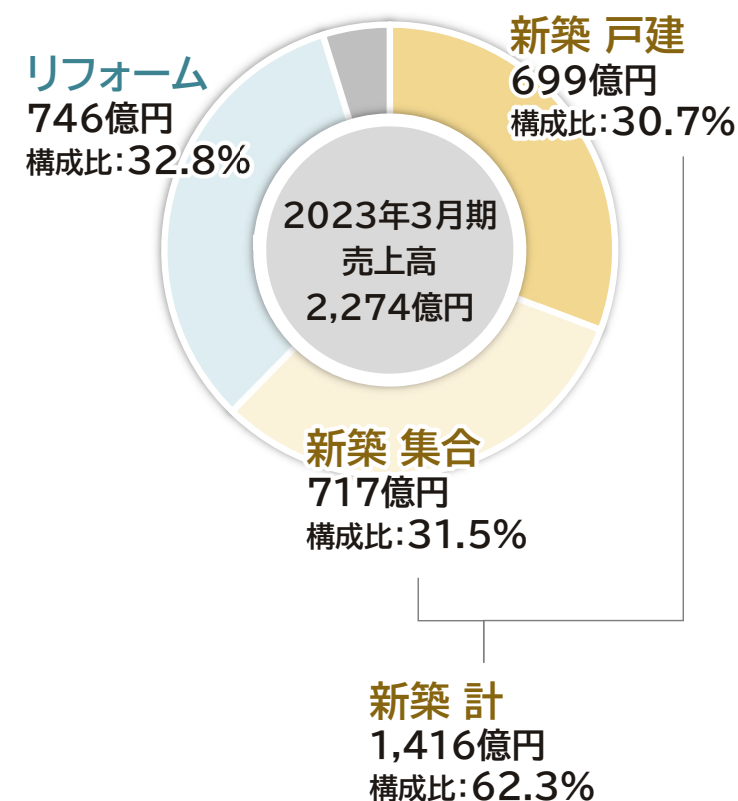
※キッチン・バス工業会の台数増減率は、システムキッチン合計、システムバス合計、洗面化粧台合計の対前期増減率を記載

各市場向けとも好調に推移。

- 新築市場 戸建住宅向け : 市場に特化した営業組織の再編など、営業力の強化により+5.0%
- 新築市場 集合住宅向け : 分譲の着工数増加やマンション向けシステムバスの浸透などにより+11.5%
- リフォーム市場 : リフォーム専用ショールームの開設など都市部での営業強化により+6.8%

(単位:億円)

	2022年3月期		2023年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
新築	戸建	666 31.5%	699 30.7%	+33	+5.0%	
	集合	643 30.4%	717 31.5%	+73	+11.5%	
	計	1,309 61.9%	1,416 62.3%	+106	+8.2%	
リフォーム	699 33.0%	746 32.8%	+47	+6.8%		
その他共計	2,115 100.0%	2,274 100.0%	+158	+7.5%		



貸借対照表

2023年3月末の総資産は 2,798億円、前期末比 30億円の増加。

(単位:億円)

		2022年 3月末	2023年 3月末	増減	主な要因
資産	流動資産	1,704	1,737	+33	現金及び預金 $\Delta 82$ 売上債権 +54 棚卸資産 +59
	固定資産	1,063	1,061	$\Delta 2$	
資産合計		2,768	2,798	+30	
負債	流動負債	735	761	+25	仕入債務 +60 短期借入金 $\Delta 16$ 未払法人税等 $\Delta 12$
	固定負債	218	222	+4	
負債合計		954	983	+29	
純資産		1,814	1,815	+1	利益剰余金 $\Delta 4$ 自己株式 +9 その他有価証券評価差額金 $\Delta 4$
負債純資産合計		2,768	2,798	+30	

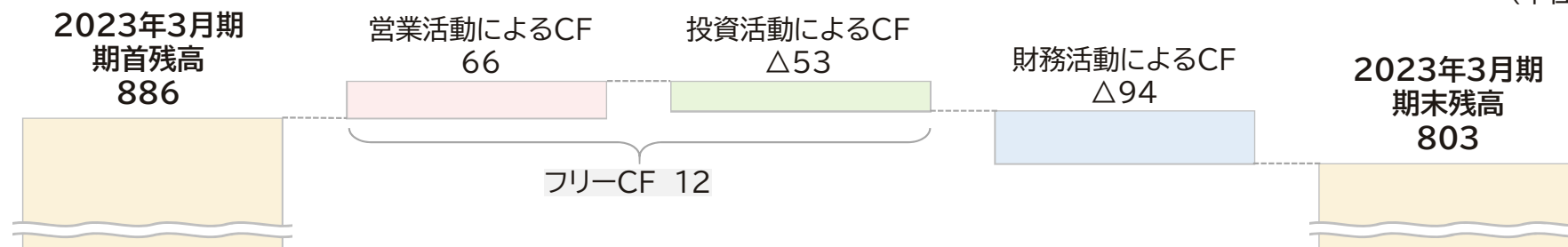
当期純利益 +84
剰余金の配当 $\Delta 41$
自己株式の消却 $\Delta 45$

自己株式の取得 $\Delta 36$
自己株式の消却 +45

キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の期末残高は、有形固定資産の取得や、配当金の支払および自己株式の取得などにより期首に比べ82億円減少し、803億円となった。

(単位:億円)



	2022年 3月期	2023年 3月期	主な内容
現金及び現金同等物の期首残高	747	886	
営業活動によるキャッシュ・フロー	196	66	税金等調整前当期純利益 122 売上債権・棚卸資産・仕入債務の増加 Δ56
投資活動によるキャッシュ・フロー	Δ30	Δ53	有形固定資産の取得による支出 Δ82 投資有価証券の売却による収入 22 有形固定資産の売却による収入 11
フリーキャッシュ・フロー	165	12	
財務活動によるキャッシュ・フロー	Δ27	Δ94	配当金の支払 Δ41 自己株式の取得による支出 Δ36 短期借入金の減少 Δ16
現金及び現金同等物の期末残高	886	803	

1. 2023年3月期 決算概要 P. 2 ~ 11

2. 2024年3月期 業績予想 P. 12 ~ 17

3. トピックス P. 18 ~ 24

国内経済

国内経済は新型コロナウイルスが「5類」に移行され、社会経済活動が正常化に向かうものの、物価の上昇や海外景気の減速など、先行きは引き続き不透明な状況。

住宅市場

新築市場では住宅価格の高騰や住宅ローン金利の上昇が懸念され、またリフォームについても巣ごもり需要の一巡や資材価格高騰の長期化による需要の減速が予想される。

資材価格高騰に伴う商品価格の改定について

各種資材価格の上昇が依然として続く中、企業努力だけでは対応困難な状況となっているため、2023年4月受注分より商品価格を下記の通り改定。

主な対象商品	改定率
システムキッチン 各シリーズ	7~14%程度
洗面化粧台 各シリーズ	7~16%程度

増収増益を計画（売上高:3.5%増、営業利益:28.9%増）

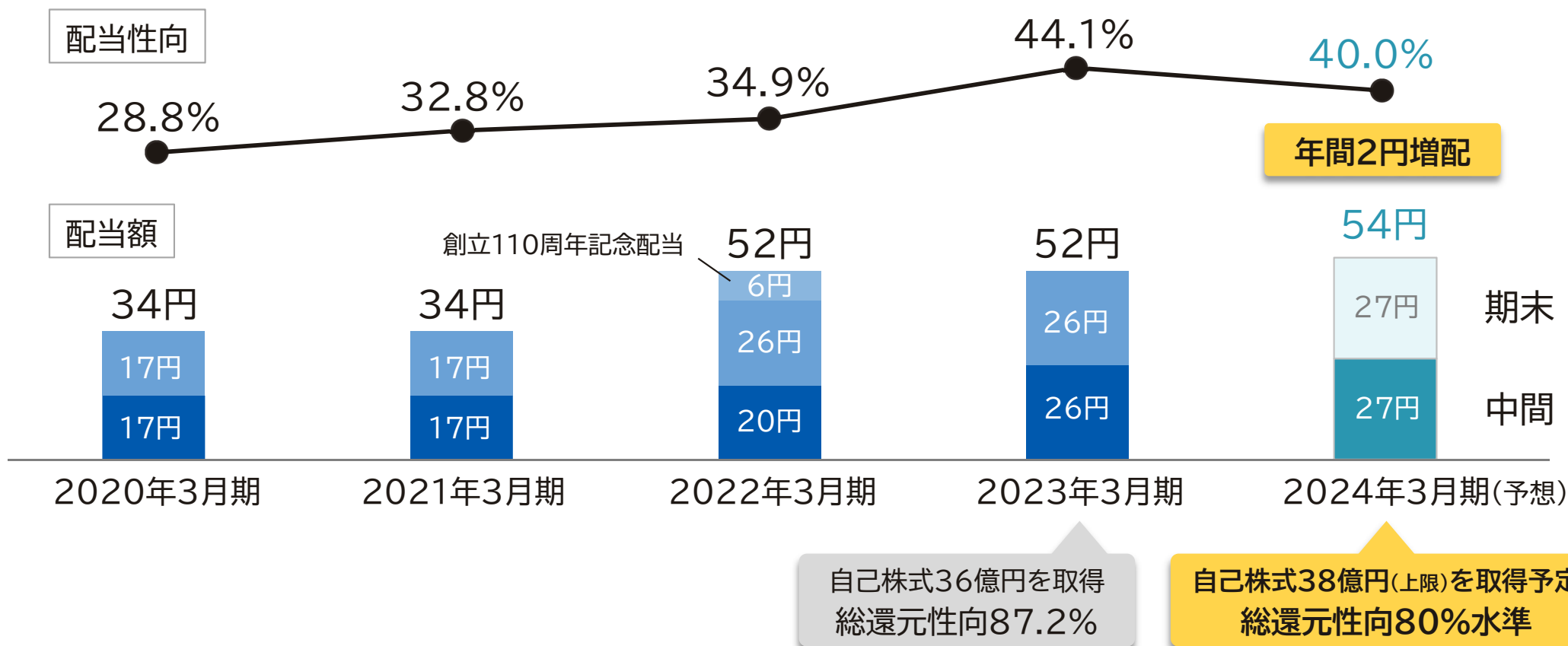
商品価格の改定や生産性の向上、営業部門のデジタル技術活用により、引き続き収益力の改善を図る。また、「商品力の強化」、「ホーロー商品の拡販」、「リフォーム市場への取組み」、「ショールーム展開」といった基本戦略の更なる推進に加え、新規事業である「ホーローパネル事業」や「海外事業」にも注力。

(単位:億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減	
			増減	増減率
売上高	2,274	2,353	+78	+3.5%
営業利益	109	141	+31	+28.9%
営業利益率	4.8%	6.0%	+1.2P	-
経常利益	114	145	+30	+26.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	84	95	+10	+12.9%

資本効率の向上及び株主還元により一層の充実を目的に、
2024年3月期は「増配」と「自己株式取得」を予定

2024年3月期の配当は年間54円(2円増配)を予定。
また自己株式取得38億円(上限)も実施予定。(総還元性向80%水準)



2024年3月期の設備投資は137億円を計画

更なる成長及び生産性の向上を目的に、生産関連投資で88億円、その他IT関連投資などを含め、積極的な投資を計画。

(単位:億円)

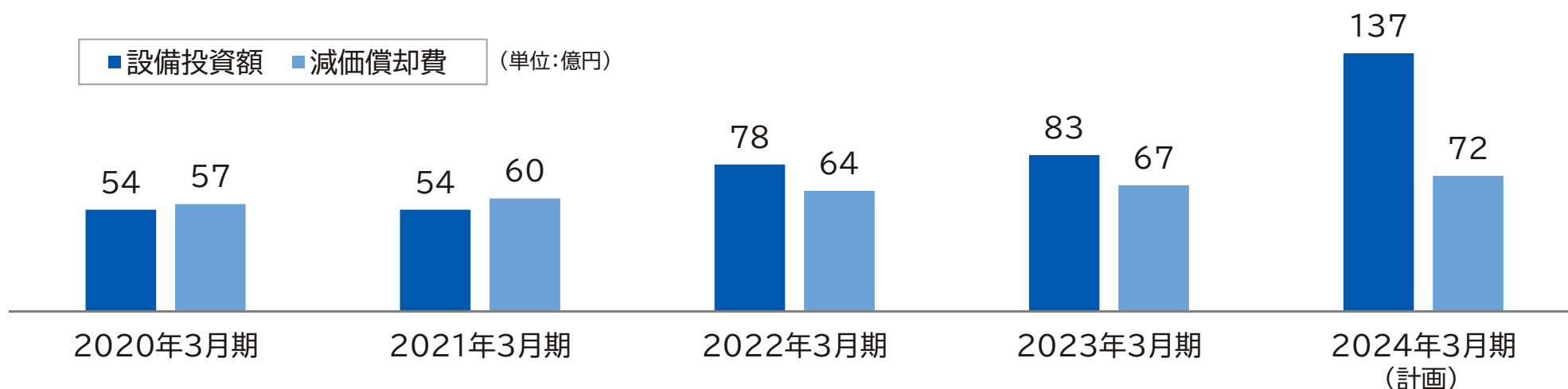
	2024年3月期 計画
設備投資額	137
減価償却費	72

(主な内訳)

(単位:億円)

項目	金額	主な内容
生産関連	88	工場用地の造成、生産設備の増設などの増産対応、自動化、省人化による生産効率化投資、他
システム関連	15	IT関連投資 (DX化の推進、他)
建物・事務関連	22	オフィス環境整備、建物維持管理、他

■設備投資額 ■減価償却費 (単位:億円)



長期ビジョン

『ホーローと共に、光り輝く魅力ある企業へ』
「独自性」を追求し、特別な価値を提供する企業

当社独自のホーロー製品の生産能力増強のため、福岡工場に400億円規模の設備投資を計画
2027年度の本格稼働を目指す

生産能力の増強(約1.5倍)

- ・ホーロー浴室パネルの生産能力増強のための専用棟を建設
- ・現状のラインはシステムキッチンの生産に特化

合理化・デジタル化の推進

- ・生産工程間における搬送の無人化や生産リードタイムの短縮
- ・新生産管理システムの導入

環境負荷低減

- ・環境に配慮した設備の導入によるエネルギー消費の抑制、CO2排出量低減



1. 2023年3月期 決算概要 P. 2 ~ 11
2. 2024年3月期 業績予想 P. 12 ~ 17
- 3. トピックス P. 18 ~ 24**

独自のホーローへのインクジェット印刷技術で、これまでになかったマット仕上げの扉柄を開発。
また、光沢仕上げの大判大理石柄など豊富なラインアップで高級感あふれる空間を演出。

ホーローシステムキッチン「レミュー」



「灰緑」(はいみどり)



「白磁」(はくじ)

ホーロー洗面化粧台「エリーナ」



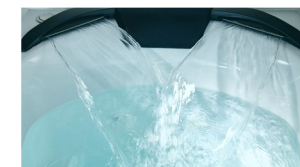
「マルキーナブラック」



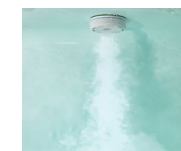
「コンクリートダーク」

デザインや素材、オプション機能などを幅広い選択肢の中から選べる中高級シリーズのシステムバス「グランスパ」好評発売中。

システムバス「グランスパ」



入浴時間を快適にする
リラックス機能「肩包み湯」



マイクロバブルにより
温泉気分を味わえる
「うるぽか湯」

マンションリフォーム特化型拠点 東京MRe.墨田ショールーム



首都圏におけるマンションリフォームの主要拠点として、
施工事例を設置し、全面リニューアル。

東京MRe.墨田テクニカルベース

ショールームの2階には、リフォーム前の現場調査方法や
納まり知識を習得できる得意先様向けの研修施設を新設。



左:浴室現場の構造を分かりやすく再現
右:梁を想定したキッチンの施工例

施工力増強に向けたエンジニア育成拠点 横浜トレーニングベース



今後さらに拡大が見込まれるリフォーム需要に対応するため、
施工力増強・確保に向けて、エンジニア育成拠点を新設。



製品の組立など現場で行う加工を一から実体験できる研修や、
商品設置前に現場で行う納まりの確認などを学ぶことができる。

2022年度は移転1カ所、リニューアル5カ所を実施

全国47都道府県に約170カ所。お客様が商品を「見て、触れて、納得」いただける地域密着型のショールームを展開。



北海道 **移転**
札幌中央ショールーム
(2023年3月)



青森県 **リニューアル**
弘前ショールーム
(2023年2月)



兵庫県 **リニューアル**
神戸HDCショールーム
(2023年2月)

上記の他、東京都 東京MRe.墨田ショールーム(2022年5月)、
広島県 福山ショールーム(2022年9月)、
群馬県 太田ショールーム(2022年9月) のリニューアルを実施。

WEB活用によりショールームへの来場を促進

360°見渡せる バーチャルショールーム



ショールーム 展示品情報



WEB予約システム



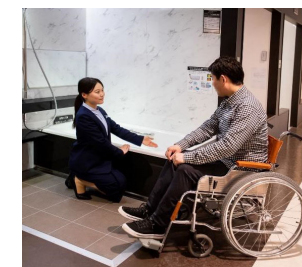
ショールームアドバイザーの制服をリニューアル

デザイナーの篠原ともえ氏による“水の流れ”をコンセプトにしたデザイン。生地に再生可能素材を使用して地球環境に配慮。



ショールームアドバイザーを対象に「ユニバーサルマナー検定」導入

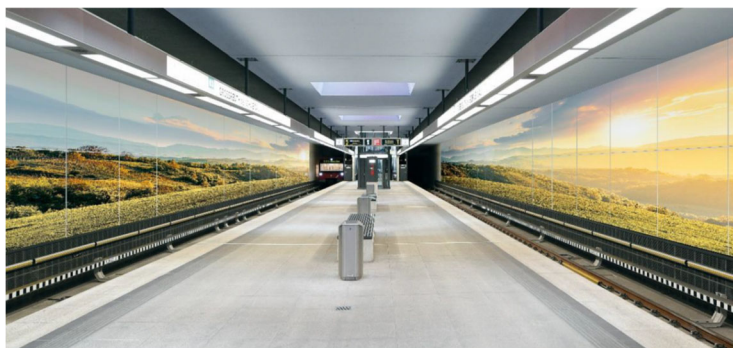
2023年5月までに全ショールームアドバイザーが受講。
全国規模での受講は住宅設備機器業界では初。



パネル事業

ホーロー外装材「エマウォール エクステリアタイプ」

インクジェット印刷技術による高精細なオリジナルデザインを実用化し、2023年1月10日(火)より受注開始。



地下鉄のホーム壁面をインクジェット仕様で仕上げたイメージ

近年、外装材においても、公共施設などで高級感や独自性を持った印象的な演出が求められるケースが多くなっており、この度、インクジェット印刷による製品のご提案が可能になりました。

エマウォールの採用実績例



海外事業

アジア各国で販売代理店網の拡大を推進

海外での認知度向上のため、現地の展示会に出展



台湾の大型展示会
「台北ビルディングショー」
(2022年12月)

当社の高品位ホーローは、高温多湿なアジアで高い評価を得て順調に売上を伸ばしています。今後もより一層の売上拡大を目指し、海外でのさらなる取組み強化を図ってまいります。

取組み施策

- ・ 販売拠点の展開とサプライチェーンの構築
(販売店ショールーム 66カ所 対前期+13)
- ・ 海外向け商品の開発
- ・ マンションなど大型物件への取組み強化

海外事業戦略室を新設(2022年10月)

2030年度に海外売上高100億円水準を目指す

土屋太鳳さんがCMキャラクターを務める当社CMを放送

2022年10月から放映しているCMは、「家族が、ぐっと、近くなる。」がコンセプト。土屋太鳳さんが、当社創業110周年を機にリニューアルした新制服でお客様をお迎えします。

土屋アドバイザーが迎えるのは、北斗晶さん・佐々木健介さんご夫婦。CMでは北斗さん、佐々木さんそれぞれの家族への想いが語られます。



※CMは当社ホームページでもご覧いただけます。

タカラトミーの“リカちゃん”と初コラボ！

クイズに答えて抽選で「創業 110 周年記念リカちゃん」が当たるプレゼントキャンペーンを実施しました。



※キャンペーンは2022年12月31日に終了しました。

キッズニア甲子園に「キッチンリフォームセンター」を出展

こどもの職業・社会体験施設「キッズニア甲子園」のオフィシャルスポンサーとして「キッチンリフォームセンター」パビリオンを2022年12月22日(木)にオープン。



ESGの取組みを通じて、中長期的な企業価値の向上を目指します

E（環境）

- 当社の独自素材「高品位ホーロー」はサステナブル素材
- タカラ環境方針の策定
- 2030年度 CO2排出量削減目標 [2020年度比30%削減]の設定
- 生産拠点への省エネ設備導入、CO2排出量の少ない燃料への転換
- CO2排出量を削減する「ホワイト物流」への賛同
- 梱包資源削減と廃棄物軽減で環境を守る
- 社屋に太陽光設備を設置し、環境と省エネルギーに配慮

S（社会）

- 様々な子育てサポートで女性が活躍できる環境づくり
- 従業員が健康で健やかに働ける「健康経営」の推進
- 場所や時間にとらわれない柔軟な働き方の推進
- こども食堂への寄付(食の支援を通して、社会に貢献)
- 子どもたちの想いを育てる「こころの劇場」協賛
- フルブライト奨学金制度に協賛
- アーティスト支援による社会貢献活動を目的とした「ホーロー×アート プロジェクト」の推進

G（ガバナンス）

- プライム市場上場企業として、健全な企業経営につながるガバナンス体制の強化
- IR活動を通じて、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を実施

当社が考えるSDGsをホームページで公開中。



< IRお問い合わせ先 >

タカラスタンダード株式会社

管理本部 財務部

TEL 06 - 6962 -1502

E-mail ir@takara-standard.co.jp

水まわりって、大切だから

Takara standard

本資料は、2023年5月11日現在の計画に基づく予測が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要因を含んだものであり、実際の業績が当社の計画と異なる結果となる可能性があります。